

令和5年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センター ゆず)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
56個	0個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	ゆず独自事業(ゆずクラブ・脳血管当事者の会・ケアマネサロン)は概ね事業計画通り実施。まちぢから・ボラセン・地区社協の会議出席等、協力体制推進を実施。地域ケア会議(年2回開催):①チームオレンジの取組みと課題⇒チームオレンジの方向性をメンバーで共有ができた。②調剤薬局との地域支援構築の開催⇒薬局が在宅支援で抱える課題の共有ができた。充実事業として、地区高齢化率と介護保険サービスの勉強会実施。まちぢからにて認知症高齢者数推計報告と共にチームオレンジ活動の報告し、卓球を通じて認知症当事者と家族支援を行っている内容の周知が行えた。 その他、地域サロンや民児協にて介護保険サービスの勉強会、周知活動として、地域団体・住民とのネットワーク構築を推進した。イオンスタイル・茅ヶ崎看護専門学校に共同企画提案し、健康イベントを開催。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和6年5月16日 ・介護支援専門員を対象にしたアンケート結果からのニーズに基づいて、年度当初から計画的に取り組み、補装具の専門職との意見交換を行うことにより改善が図られていた。 ・地域ケア会議にチームオレンジのメンバーや主治医も出席者に加え、個別の支援課題やチームオレンジの方向性を協議していた。その中で社会福祉協議会と連携して個人ボランティアを活用するなどネットワークの強化につなげることができていた。 ・地区の課題を再確認して整理するため、支え合い推進員と連携してまち歩きを実施することにより、高齢者のニーズや社会資源の把握に努め、翌年度以降の活動の土台作りを行っていた。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和5年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターつむぎ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
55個	1個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	認知症サポーター養成講座を地域のカフェで開催。その後オレンジカフェの立ち上げに取り組み今年度は年2回の開催に繋がった。地域ケア会議は共恵と中海岸の一部地区へ「災害時の避難と避難所利用について」アンケートを実施、調査結果を基に分析・報告を行い住民や行政、小学校関係者、薬局、マンション管理組合と情報共有を図った。また感染症および災害時におけるBCPの策定において、テナントで入っている施設や各事業所とも災害時における行動基準などについて話し合いを行った。民児協では地域課題の一つである「空き家問題」について司法書士による勉強会を企画・実施しネットワーク構築に務めた。地域の居宅介護支援事業所とは、介護支援専門員のニーズに基づき、社会資源の一つであるボランティアセンターと交流機会を設け、積極的な意見交換を行った。機能強化1名の欠員においては引き継ぎ書などを活用し、切れ目なく業務が継続できる体制を整えた。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和6年5月23日 ・適正な職員配置について、3職種の配置はされているが、機能強化分の職員配置が欠員となっていた期間があった。他職員が業務を引き継ぎ、切れ目なく業務を行う体制は整えられていたが、今後は欠員が生じないように運営する必要がある。 ・事務所が入っている建物内のテナントと協力し、災害時の行動基準についての情報共有を行うなど、防災・減災に向けた取組がされていた。 ・スマホ講座の開催、買い物支援情報サイトへの登録に関する商店への情報提供など、地域の社会資源の活用促進に向けて、積極的に取り組んでいた。 ・地域課題を把握するためのアンケートを実施し、抽出された課題（移動・買い物）の解決に向け、関係機関と協力して移動販売の誘致に向けた働きかけを行うなど、社会資源の開発に積極的に取り組んでいた。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和5年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターれんげ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
56個	0個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	5年度は地域住民との関わりに重点を置き運営を行った。商店の一角を借りて総合相談を受ける機会をもったり、住宅型有料老人ホームの入居者対象の介護保険制度説明会を行った。介護予防事業では「れんげクラブ」を地域内北部で開催。自治会長や高齢者の参加が多くあった。認知症関連事業は「認知症家族の茶話会」を企画。チームオレンジメンバーも参加され、本人、家族支援や地域住民への啓発活動が必要であることを共有。権利擁護事業は「消費者被害防止」出前講座を開催。地域内の金融機関に講話を依頼。生の事例を紹介し参加者より分かりやすかったと感想を頂いた。地域ケア会議は、地域住民と事業者が個人情報共有する場合の留意点等を弁護士から講義を受け、意見交換し連携を深めた。家族介護教室は「コンビニ食を使った献立」のテーマで管理栄養士より社会資源を活用して介護者の健康維持に役立つ情報提供を行い、食事(栄養)の大切さを伝える事ができた。
------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和6年5月21日 ・れんげひろば、れんげクラブの開催場所を増やすことで、より多くの地域住民が参加できるよう工夫していた。 ・れんげ通信の発行や出前講座の開催を通して、消費者被害の注意喚起を積極的に行っていた。 ・住民からの意見をきっかけに、チームオレンジメンバーと協力して認知症家族の茶話会の開催やコグニサイズを実施し、ニーズに基づいた取組みを行っていた。 ・地域ケア会議は、専門職員等派遣事業を活用し、弁護士から専門的な講義・意見を受けただうえで各機関における個人情報の取扱い等について意見交換し、地域のネットワーク構築へとつなげていた。
---------------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和5年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 海岸地区地域包括支援センターあい)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
56個	0個	9個	1個

地域包括 支援センター 自己評価	今年度は「ぴあサロン」を立ち上げ、ホラセンを借りて地域住民と一緒に介護者に寄り添える集いの場を月1回開催し、直接気軽に話が出来る機会を作った。そして、年4回開催していた「四季サロン」を今年は月1回に増やし、健康講座も充実させ、手芸の他、地域福祉課と協同しスマホ教室を企画した。長年続けている「ちがさき体操・湘南くち体操・コグニサイズ」についても健康増進・介護予防を充実させ、様々な講師に協力をいただき実施できた。民生委員と協同し「高齢者等見守りネットワーク」を年2回ずつ自治会ごとに集まり、民生委員の相談に応じ、地域の気づきの輪を広げている。ネットワーク会議より地域の課題として夏休みの子供の居場所づくりに取り組み「サマースペース海岸」立ち上げに協同した。年度の途中で職員の異動があり、滞りなく業務を実施する為しっかりと引継ぎを行い、包括経験職員を追加し業務量を調整した。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和6年5月20日 ・適正な職員配置について、令和5年5月より主任介護支援専門員が欠員となっている。業務に支障が生じないよう、他職種の職員を配置するなどの対策はとられているが、受託法人として、必要な職員の配置を行い、速やかに状況を改善をする必要がある。 ・消費者被害に関する相談について、4年度は消費生活支援センター等との連携が図れていなかったが、5年度は改善されていた。 ・「ぴあサロン」の立ち上げ、「四季サロン」の回数増、「ちがさき体操」の内容充実など、独自事業の実施について、積極的に取り組んでいた。 ・高齢者等見守りネットワークとして、民生委員からの相談の機会を設け、情報共有を行い、支援が必要な高齢者等に早期に気づくことができる体制を構築していた。
---------------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和5年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 鶴嶺東地区地域包括支援センターさくら)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
55個	1個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	令和5年度研修計画に基づき、事業継続計画(感染対策・災害時)の整備と机上訓練を行い基本ができた。人材育成について、職員が満遍なく研修に参加し伝達講習を行い、対人援助者としての技術の向上に務め関係団体と協働し支援を行う事が出来た。地域共生社会の実現に務め、地域の団体の会議に定期的に担当職員が参加し、情報共有やネットワークの構築に努めた。地域支援事業として、市内9地区の地域サロン活動に出向き、地域包括支援センターの広報活動や消費者被害対策に関する啓発活動・健康増進講座の開催を行った。包括さくら独自事業の「月1回さくらすこやかクラブ」の健康教室を継続している。認知症地域推進事業は、認知症サポーター養成・勉強会を地域の関係団体の開催(5回)を実施しステップアップ講座に協力しチームオレンジのメンバー作りができた。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和6年5月16日 ・地域のサロンに出向き、包括の役割や消費者被害について周知するだけでなく、包括が属性を問わない相談窓口となったことの説明を積極的に行っていた。 ・地域ケア会議とネットワーク会議を同時に開催し、介護支援専門員が地域の課題を認識する機会を創出するとともに、見守りネットワークの強化につなげていた。 ・介護支援専門員の民生委員を知っておきたいというニーズに基づいて、意見交換の場を設けることにより、お互いの役割の理解を深めていた。 ・認知症サポーターが活躍する場を提供し、サポーターのモチベーションをを高めると共に、チームオレンジの土台作りにつなげていた。
---------------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和5年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センター みどり)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
54個	2個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	新型コロナウイルスの5類移行に伴い、令和5年度に予定した事業は全て開催することができた。まちぢから協議会、民児協定例会や地区社協ネットワーク会議への参加等連携を図り地域内福祉活動の後方支援を行うことが出来た。地域行事は5年ぶりの地区福祉祭りの開催や、高齢者昼食会等多くの行事に参加し、消費者講座や健康体操等の支援を行った。独自事業としてみどりカフェやフレイル防止のためのポールウォーキングを実施した。認知症サポーター養成講座については地区内専門学校生を対象に開催できた。事業等の開催に際し、包括の紹介を含めた「みどり通信」の定期的な発行と配布により包括や独自事業・家族介護者教室の周知と案内に活用できた。また、地域ケア会議を地区ネットワーク会議内で開催したことや、新たに閉じこもりやフレイル等の高齢者の活動の場としてみどりファームと称し、地域住民協力のもと畑づくりを始めるなど社会資源の開発を行った。
------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和6年5月21日 ・地域の関係機関の連絡先リストをデータで管理し、常に最新の情報に更新しながら活用することで、相談時に適切な社会資源の情報を提供できるようにしていた。 ・介護支援専門員のニーズに基づいた、医療機関や地域の社会資源との意見交換の場は設けられなかったが、担当圏域における居宅介護支援事業所との事例検討会を活用して、介護支援専門員向けに情報提供等を行っていた。 ・地域ケア会議では、民生委員が介入している事例や地域で増加している精神疾患の方の事例を取り上げ、各々ができることを整理してネットワークの強化に取り組んでいた。 ・みどりカフェでは、多くの住民が参加できるようフラワーアレンジメントやラフターヨガ等テーマを工夫し、外出先の確保や地区活動の担い手の育成の機会としていた。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和5年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターすみれ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
55個	1個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	重点的な取り組みとして、男性の社会参加を促す、地域の通所系サービス事業所の避難行動についての情報収集、地域の団体や介護事業所と協力して認知症施策に取り組む事を計画に入れ実施した。男性の社会参加では、市とURと協働し高齢男性を対象に男の料理教室を2回開催した。通所事業所の避難行動についてはアンケート調査を行い情報収集した。認知症施策としては、湘南オレンジdayを2日間開催した。苦情相談 対応については、朝礼で報告し、対応策 までを検討し、記録に残し全職員で共有した。職員教育に関しては、各専門職ごとに、研修目標、計画を立て研修を受け、資料の回覧や伝達講習を行う事で、全職員が学べる機会を作った。地域ケア会議は3回開催し、個別課題は、URの建て替え事業で、8050問題を抱えているケースが多い事から、市社協、行政機関、訪問看護、訪問診療MSW、民生委員、UR生活支援コーディネーターが集まり検討した。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和6年5月27日 ・男性の社会参加を促す機会として、「男の料理教室」を開催するなど、URと協働で孤立化の課題に対して積極的に取り組んでいた。 ・「湘南みまもりタイ」について、地区社協主催の福祉まつりへの参加を通して地域住民に周知し、地域住民による互助で地域を守ることの啓発につなげていた。 ・チームオレンジのメンバーやまちから協議会、介護保険事業所等と連携して「湘南地区オレンジDay」を初めて開催し、地域住民と関係機関等がつながる機会の創出を図っていた。 ・地域ケア会議については、オレンジカフェや地域住民相互の見守りに関する議題の他に、団地の建て替え事業に伴う8050問題に関する個別事例を取り上げて、地域課題を検討する機会を設けていた。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和5年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センター くるみ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
55個	1個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	R4年度から、地域課題の一つとして「移動手段」をテーマに地域ケア会議で検討を重ね、まちぢから協議会福祉部会や地区社会福祉協議会と連携をしながら、「行事への参加」を目的とした送迎支援を事業の一環として実践した。次年度以降は、地域の希望に沿って最大限協力し、そのための良好な関係を維持し、更なる発展に繋がると良いと考えている。まちぢから協議会福祉部会主催のサロンの中では、お口の体操、消費者被害等に関するミニ講座を行い、地域住民に対して健康や消費者被害などの意識付け(注意喚起)を行うことができた。 認知症施策に関しては、認知症地域支援推進員が中心となり認知症カフェのプレ開催ができ、チームオレンジの体制整備に向けて、次年度以降検討を行っていく。 Q16における職員の配置については、R4年12月に保健師が入職したことで、必要数配置が継続できている。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和6年5月17日 ・保健師の配置について、4年度の評価時点(4月)では準ずる者が配置となっていたが、年度中に保健師を新規採用し、準ずる者を含まずに3職種が配置できるよう、体制が整えられていた。 ・移動支援について、地域の関係機関と連携し、地域のイベント等の開催時に介護サービス事業所等が保有する車両を活用した送迎を行うなど、新たな社会資源の掘り起こしに積極的に取り組んでいた。 ・地域の介護サービス事業所と連携して試験的に認知症カフェを開催し、今後に向けて、地域内の他事業所へも働きかけを行うなど、チームオレンジの活動の拡がりに向けて取り組んでいた。
---------------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和5年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターあかね)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
52個	4個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	・認知症サポーター養成講座を4回開催できたこと、またステップアップ講座の受講者が増えたことは、地区の認知症の本人や家族を支えていく上で前進になった。 ・包括的・継続的ケアマネジメント支援における、介護支援専門員に向けた取り組みが実施できず、今後の強化が求められる。 ・地域ケア会議では、鶴が台地区の諸団体に集ってもらい課題等を意見交換をしていく中で、URや自治会の協力のもと、介護相談会の会場を鶴が台名店街内のふれあいサロンを活用させてもらえることとなった。 ・地域ケア会議や上記介護相談会など、担当地域内での活動場所に偏りが出てしまったことが課題のひとつであると自己評価している。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和6年5月20日 ・チームオレンジ立ち上げに向けて、サポーターが不足しているという課題を解決するため、認知症サポーター養成講座を多く開催し、ステップアップ講座に繋げるなど、チームオレンジの立ち上げに向けて前向きに取り組んでいた。 ・5年度中に管理責任者の変更があったが、引継ぎ期間を十分にとり、円滑に引継ぎがされていた。 ・国評価の在宅医療介護連携については、相談する案件がなく×となっているが、関係機関との連携は取れていた。 ・国評価の認知症初期集中支援チームとの情報共有については、包括内でケースの対応ができていたため、実施されていなかった。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和5年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センター 青空)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
56個	0個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、コロナ禍では月1回開催であった「ふれあいサロン」が月3回開催に拡大された。計画的にサロンに出向くことで住民に対して介護予防等の情報提供や周知活動に積極的に取り組んだ。周知活動に際しては地域活動充実事業を活用し、缶バッジ等の馴染みやすい媒体を作成する等の工夫を凝らした。小和田地区のチームオレンジの活動として、認知症カフェ「ふらっと茶屋」を令和5年4月から毎月の定例開催を実現した他、地域住民を対象にした認知症の方への声かけの寸劇を考案し、令和6年3月の地区懇談会で実演した。今年度は8月と2月に参集での地域ケア会議を開催、身元保証人のいない認知症高齢者の事例と、疾病により心身に障害を負った若年者の事例を通して、地域課題の発見と共に、専門機関や地域の果たせる役割の確認とネットワーク構築について意見交換が出来た。
------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和6年5月24日 ・オリジナルポスターや缶バッジ、間違い探しの要素を取り入れたチラシ等を作成する等、センターの役割について分かりやすく周知していた。 ・認知症カフェ「ふらっと茶屋」では、チームオレンジの主体的な活動を支援することで、地域の集いの場としていた。 ・地区社協と協力して地域の社会資源マップを作成し、社会資源をマップに落とし込み可視化することで、住民に対して効果的な情報提供ができるよう工夫していた。 ・地域ケア会議において、成年後見支援センターや基幹相談支援センターを招き、身元保証人のいない認知症高齢者や障がいのある方への支援について検討し、各機関との連携及びネットワークの構築を図っていた。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和5年度
地域包括支援センター事業運営評価シート
(センターの名称: 地域包括支援センターさざなみ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
55個	1個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	・地域の孤立予防・介護予防の場として、地域住民を対象としたラジオ体操を週1回開催した。そのうち10回を運動支援員による指導日とし、孤立予防だけでなく、地域住民のさらなる健康増進の機会も提供することができた。 ・認知症に関する取組として、認知症サポーター養成講座の開催、地区内NPO法人と共催での認知症カフェの開催をした。 ・新型コロナウイルスの第5類移行に伴い地域のイベントが再開され、コミセンまつりや地区社協主催の福祉まつりへ参加し、包括支援センターの周知活動を行った。 ・公民館とも共催で介護に関する講座を開催した。 ・地域ケア会議では、ネットワークの構築を目的に福祉関係機関ではない地域の商店等との関係づくりに取り組んだ。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和6年5月17日 ・地域ケア会議を活用して商店やスーパー、コンビニエンスストア等と意見交換し、顧客の各店舗における高齢者への対応の現状や課題を共有し、6年度に向けて、地域で高齢者が生活を継続できるよう、関係機関との連携について検討していた。 ・コミセンの駐車場でラジオ体操、コミセンカフェで認知症カフェ・パーキンソン病家族の交流会を開催し、センターの立地を生かした取り組みを積極的に行なっていた。 ・他地区センターや公民館と共催して介護に備える講座を認知症をテーマとして開催することで、地域全体で認知症について考える機会を提供していた。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和5年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センター あさひ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
54個	2個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	R4年度から地域ケア会議で防災について取り組んだ。精神保健福祉士として支援活動に携わった方の講話、それを踏まえたグループワークにて①災害が起きた時、その時の役割について②ライフライン(水道・ガス・電気)が止まったら…日頃から考えている事を地域の方や介護事業所・障害事業所・商店や郵便局の方と皆で共有し、共通認識を持てた。個別事例としては、「気持ちの揺れ動きが激しく、介護保険サービス利用が定着しない高齢者の心理の理解・対応の仕方について」話し合った。その後も気持ちの揺れが多いが、相手に沿った対応を続けて行っている。あさひカフェ(認知症カフェ)は月1回開催。当事者、サポーター又はボランティアも定着し、認知症の方が暮らしやすい地域の一例として機能している。サポート浜須賀の定例会は月1回参加。その時に市社協・地域福祉課等と課題共有を行うなどして連携をしている。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和6年5月17日 ・年度末に管理者の退職があったが、業務マニュアルを作成して引き継ぐなど、切れ目なく業務を実施するための取組がされていた。 ・地域ケア会議を活用して、地域内の介護施設や関係機関との話し合いの場を持ち、災害に関する意識の共有やネットワークの強化を図るなど、地域の防災意識を高めるための取組がされていた。 ・在宅ケア相談窓口への相談については、包括内で対応ができたため、相談実績がなかった。 ・ネットワーク会議の場を活用して、地域課題の共有を図るなど、第2層地域支え合い推進員との連携を意識した取り組みについての改善がされていた。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和5年度
地域包括支援センター事業運営評価シート
(センターの名称:地域包括支援センター わかば)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
56個	0個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	・認知症ケア専門士である職員が入職したことで、小出地区のチームオレンジを立ち上げる事ができました。打合せ回を4回開催し、家族介護教室と地域ケア会議を認知症に関連する内容で統一し、チームオレンジメンバーに参加して頂きました。地区社協との共催でのサロン開催においても、チームオレンジメンバーに介入して頂き、次年度のチームオレンジ活動を具体的なものとする為の布石ができました。 ・包括的・継続的ケアマネジメント業務として、主任ケアマネジャーの資格を持った職員が2名いる強みを活かし、ケアマネジャーと地域活動の担い手を結びつける勉強会を開催する事ができました。 ・まちぢから協議会、ボランティアセンター、民児協、地区社協との連携を強化し、地区全体の防災訓練に打合せ段階から参加したことから、各自治会との関係構築が深まりつつあります。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和6年5月31日 ・パンフレットとは別に発行している「わかば通信」について、重層的支援体制整備事業の趣旨を意識して、自治会の回覧板の活用や各会議での配布だけでなく、障がい者施設にも配布し、センターの周知に努めていた。 ・介護支援専門員のニーズに基づき、インフォーマルサービスや自治会のボランティアについて、地域で活躍する方々に活動報告を依頼し、介護支援専門員と意見交換できる場を設けていた。 ・地域ケア会議の個別課題を取り扱う目的について、見やすく1枚にまとめたものを提示して説明し、会議参加者や地域の関係機関の理解が深まるよう工夫していた。
---------------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。